

平成26年度における読書活動 推進施策について（報告）

－あきたの子どもたちに読書の喜びをリレーしよう－



平成27年6月

秋田県読書活動推進本部

目 次

I	はじめに	1
II	基本計画の推進に当たっての方向性と事業推進状況	2
III	読書活動推進の施策	3
	第1 「県民が読みたい本を選択する場」や「本に親しむ活動の情報発信の拠点」機能の強化	3
	(1) 図書資料の充実	3
	(2) 図書資料を活かす人材の確保と配置	5
	(3) 情報発信・効率的な利用システムの構築	7
	(4) 開放性	9
	第2 県民・民間団体・企業等による読書活動の推進	11
	(1) ボランティア活動を担う人材養成	11
	(2) ボランティア活動への支援	11
	(3) 活動団体等のネットワークづくり	12
	(4) 企業の地域貢献活動としての読書支援の啓発と連携	12
	第3 読書をしやすい環境づくり	14
	(1) 行政の取組	14
	(2) 学校等での取組	17
	(3) 家庭での取組	18
	(4) 職場での取組	18
	(5) 各民間団体等を通じた読書の普及・啓発	18
	第4 読書に関する県民運動の推進	19
	(1) 読書の楽しみ	19
	(2) 図書資料の確保・充実	20
	(3) いつでもどこでも読書	20
IV	読書活動を推進する体制	22
	(1) 「秋田県読書活動推進本部（仮称）」の設置	22
	(2) 県子ども読書支援センターにおける支援と活動の充実	22
	(3) 読書に関する調査の実施	22
	(4) 読書活動推進関係者との意見交換会の開催	23
	(5) 「読書活動推進県民会議（仮称）」の創設	23
	(6) 「子どもの読書活動推進計画」の策定への支援	23
V	「達成すべき目標数値」平成26年度実績	24

I はじめに

読書活動は、県民が人生を豊かに生きる上で大切なものであり、文化的で豊かな社会の構築にも寄与することから、本県では、「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」（以下「条例」という。）を制定し、平成22年4月1日から施行している。

また、平成23年3月に、条例に基づき、「秋田県読書活動推進基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定し、読書活動の推進に関する施策を総合的・計画的に進めてきている。

本報告は、条例第4条第2項に基づき、平成25年度に基本計画により実施した施策を議会に報告するため、その概要を取りまとめたものである。

○ 秋田県民の読書活動の推進に関する条例【抜粋】

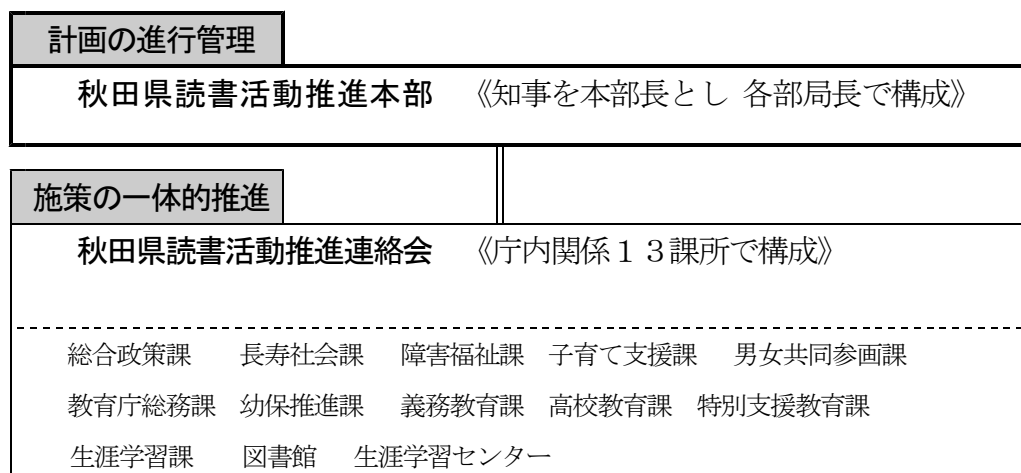
（県民読書活動推進基本計画）

第四条 県は、県民の読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、県民の読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を策定するものとする。

2 県は、毎年、基本計画により実施した施策を議会に報告するものとする。

3 県は、必要があると認めるときは、基本計画を変更するものとする。

《 読書活動推進体制 》



◆表紙写真 【上】大学生のビブリオバトル

【中・左】高校生のビブリオバトル 【中・右】パパ絵本チーム『パパコラボ』

【下】スグッチリサイクル文庫贈呈式

基本計画の推進に当たっての方向性と事業推進状況

読書は、人生を心豊かで潤いのあるものにしてくれる大変有意義な活動である。人は読書を通して、心を癒されたり、あるいは勇気づけられたりと、実に様々なことを体験している。本の中では、全く別の人生を生きることも可能となるほか、一冊の本との出会いが人生の転機となるという場合さえある。

こうした読書の優れた側面に照らしたとき、今後の社会をより豊かなものにしていくうえでは、誰もが生涯を通じて読書に親しむことのできる環境を作り上げ、また気運を盛り上げていくことが非常に重要となる。

県では、県民総ぐるみで読書活動を推進していくため、県民一人ひとりが子どもの頃から読書に親しむ習慣を身につけ、様々な場面で本に接する機会が確保されるよう各種施策を進めていくこととしているが、基本計画の冒頭において、その推進に係る4つの基本的方向を次のとおり定めている。

- 1 県民のライフステージや環境に応じて、読書に親しむ環境を整える。**
- 2 勉学、仕事、余暇活動など生活の様々な場面で、気軽に読書することができる環境を整える。**
- 3 読書活動を通して、地域のコミュニティの形成を図り、地域の絆を深める。**
- 4 読書活動は習慣付けが重要であることから、特に子どもの読書活動を積極的に推進する。**

平成26年度推進状況 秋田県民の読書活動の推進に関する条例」の施行から5年目を迎えた平成26年度は、県民が読書に親しむ機運をさらに盛り上げるため、毎年11月1日を「県民読書の日」と定めた。（県レベルでの制定は本県が唯一である。）

また、県民読書の日制定を記念し、秋田県を舞台とした作品を募集する「ふるさと秋田文学賞」を創設して受賞作品集を刊行するとともに、県読書活動推進本部の構成団体の協働による「読書のつどい2014秋」を開催し、福祉、子育て支援、教育、地域づくりなど多分野から読書をテーマとしたブースが出展した。

企業との連携事業として、平成23年度から実施している「プロスポーツ等連携読書推進事業」では、プロサッカーボールチーム「ブラウブリッツ秋田」が新たに加わり、プロバスケットボールチーム「秋田ノーザンハピネッツ」とともに、各スポーツ会場に「ハピネッツとハッピー読書」「ブラウブリッツ秋田とエンジョイ読書」などの読書コーナーを設置して、選手おすすめの図書紹介や「家族で読書」パンフレットの配布など、県民が気軽に読書を始めきっかけづくりを行った。

また、県民に身近な市町村図書館や学校図書館のブラッシュアップ支援を行う県立図

書館「打って出る司書」の「ビフォー・アフター研修」等や、小・中学生の「子ども司書」養成、競技感覚で本の魅力にスポットを当てる「ビブリオバトル（書評合戦）」により、若者を対象とした新たな読書推進の取組が始動した。

平成27年度も引き続き、市町村、民間団体等と一体となって、多くの県民が読書に親しめるよう、基本計画に掲げる4つの柱に沿って、読書推進活動を着実に推進していくことが必要である。



▲「読書のつどい2014秋」



▲記念講演 内館牧子氏



県民読書の日制定記念功労者表彰▶

▼「ブラウブリッツ秋田とエンジョイ読書」



Ⅲ 読書活動推進の施策

▲「ハピネッツとハッピー読書」

第1 「県民が読みたい本を選択する場」や「本に親しむ活動の情報発信の拠点」機能の強化

(1) 図書資料の充実

県民が読みたい本を選択できるようにするためには、図書館をはじめとした各施設の図書資料の充実、読みたい本にたどり着けるような環境づくりが必要となる。また、

低年齢期には読書の習慣を身につけるきっかけとなる本と出会うことなどが大切であることから、以下のような取組を行った。

○ 公立図書館等における図書資料の充実促進を図るため、県図書館協会が実施している出前研修等各種研修会や市町村立図書館巡回訪問において、資料選定に関する助言・指導を行った。

- ・研修会開催数 37回
- ・訪問図書館・図書室数 156館

○ 幼稚園・保育所、児童館の図書室の図書資料の充実を図るため、県民に絵本などの寄贈を呼びかけ、それを希望する公共施設等に配布、再活用する「スグッチリサイクル文庫」事業を実施し、103名1,446冊の寄贈を受け、子育て支援センターや児童福祉施設等64箇所に絵本等の配布を行った。

なお、本の回収にあたっては、市町村立図書館に届けられた本を県立図書館の巡回車を使って回収する県・市町村立図書館の連携ルートを活用した。

❖ 「スグッチリサイクル文庫」の流れ



❖ 「スグッチリサイクル文庫」の配布状況 (H23～26年度)

配布施設等	箇所数
保育所・幼稚園	190
児童館・児童クラブ	136
病院等	135
児童福祉・子育て支援	17
企業	26
その他	10
計	514

○家庭で眠っていた11,000冊以上の絵本が、スグッチリサイクル文庫としてよみがえりました。(4年間累計)

スグッチリサイクル文庫利用者の声

今朝、絵本が届きました。リサイクルとは思えないほど新品同様の本でした。保育園の子どもたちは普段はセロテープやのりを使い補修された絵本を見ています。スグッチプレゼントは大喜びでした。本当にありがとうございます。

❖平成26年度図書寄贈状況

寄贈者数	103人
図書数	1,446冊

○ 親子の心のふれあいを通じて、子どもの健やかな育ちを促すため、親と子が最も親密な関係にある乳幼児期からの絵本の読み聞かせの普及を進めるため、0歳児から小学校低学年までを対象とする推薦図書等を紹介した「2015マザーズタッチ文庫」ウェブブックを作成し、子育て支援課公式ウェブサイト『いっしょにねっと。』に掲載したほか、リーフレットを作成し、幼稚園、保育園等に配布した。

○ 高齢者の読書環境の充実を図るため、高齢者が読みやすい大活字本や音声図書資料（CD）を県立図書館に整備した。

・大活字本購入 111冊 ・視聴覚資料整備 229点

○ 障害者の読書環境の充実については、県点字図書館において点訳図書や音訳図書（テープ）、デージー図書*等の制作を行ったほか、こうした図書の貸し出しを通して視覚障害者への図書提供サービスの向上に努めた。

※ デージー図書：DAISY（Digital Accessible Information System）という規格を用いたCDにデジタル録音した図書。従来のカセットテープとは異なり、目次から読みたいページに飛んだり、繰り返し聞いても音質が悪くならない等の利点がある。

・図書制作 点訳図書：131タイトル、音訳図書：2タイトル、
デージー図書：104タイトル

・図書貸出 点訳図書：626タイトル、音訳図書：981タイトル
デージー図書：6, 779タイトル
定期刊行物：12, 104タイトル

（2）図書資料を活かす人材の確保と配置

読書活動を推進するためには、図書資料というハード面での整備に加え、その図書資料を活用する上での人材面でのサポート体制も同時に整えていくことが重要となる。そのため、図書館の利用者に適切にサービスを提供できるよう専門的職員の能力向上に努めたほか、読み聞かせやおはなし会などのボランティア活動を行う人材の育成を図った。

○ 「市町村子ども読書活動推進計画」策定に向けた助言をする中で、市町村立図書館への専門職員の配置について奨励したほか、高等学校については、各種研修の機会に、図書館便りの発行や図書紹介などの活動を図書委員会を中心に促進するよう

指導した。

- ・市町村子ども読書活動推進基本計画

策定済市町村数 23市町村

策定作業中 2市（鹿角市、湯沢市）※H27年度中に策定予定

- 図書館関係職員の能力向上の機会を提供するため、県図書館協会の出前研修等の制度を活用し、市町村立図書館や学校図書館の運営に関する研修会を実施したほか、読み聞かせ等の研修会に講師を派遣し、ボランティア等の人材育成を図った。また、「打って出る司書」の取組により、市町村立図書館等が、地域の実情に応じて、ボランティアに研修を行ったり、新たなボランティア参加者を募ったりできるようサポートした。

- ・研修実施回数 37回（うち総合教育センター研修制度で1回）

- ・講師派遣回数 21回

- 学校図書館における図書資料の活用充実を図るため、学校図書館法施行令により、司書教諭を置かないことができることとされている学級数11以下の小・中学校への司書教諭の活用について学校訪問時等において指導したほか、高校等においても同様に司書教諭の配置を進めた。そのほか、各学校において図書館利用の手引きとなる運営マニュアル等の整備、授業等での図書館の活用計画の策定、優れた実践事例の紹介等、学校図書館の利用促進について学校訪問時等において指導に努めた。

❖「打って出る司書」の取組

<平成26年度形態別訪問回数>

	[巡回訪問] 全市町村立図書館・図書室	[運営課題解決サポート] 市町村の求めに応じて	[研修等のサポート] 市町村の求めに応じて	計
県北	46	6	10	62
県央	56	8	10	74
県南	54	0	17	71
全県	156	14	37	207

<「打って出る司書」による情報提供とその活用例>

例	市町村訪問時に行った情報提供など	その後の市町村立図書館等の対応・活動の変化
1	館内のレイアウト改善や新規コーナーの設置を助言	課題解決のために「子育てコーナー」と「teens'コーナー」を新たに設置した。
2	新館建築に伴う新館のレイアウト、移転準備のための資料整理の仕方を助言	各市町村で館内のレイアウトやサービスに助言の内容を活かして準備を進め開館した。
3	市町村図書館が主催した学校図書館の環境改善のための研修会に講師を派遣	学校図書館関係者と市町村図書館職員の共同参加による研修を実施することで双方に緊密な関係ができた。

(3) 情報発信・効率的な利用システムの構築

各図書館等が互いに十分に連携し、読書に関する情報を効率的に発信する等、利用者にとって利便性の高い施設となるよう、情報発信機能等の強化を図り図書館の利用増に努めた。

① 県立図書館の取組

- 県民の課題解決の手助けとなる、参考資料（レファレンスブック）、郷土資料、キャリア教育用資料等を充実させ、その活用を図った。
- 観光情報コーナー、ビジネス支援コーナー、子育て情報コーナー、健康情報コーナー、生活支援コーナーの各コーナー資料の充実を図るとともに、季節や時事に対応したテーマ展示を開催することにより、県民の利用機会の拡大と利便性の向上を図った。

- 各機関・団体等と連携した企画展等の充実を図った。



- ・博物館や近代美術館、埋蔵文化財センター等と連携した企画展示（6回）、セミナー（2回）の実施
- ・児童会館と連携したチャリティーコンサートの開催（1回）
- ・県民によるプロムナードコンサートの開催（10回）
- ・放送大学との連携セミナーの開催（2回）
- ・大学図書館への資料提供（貸出冊数 306冊 借受 59冊）

- 県立図書館のホームページやブログにおいて図書館主催事業等の情報を提供するとともに生涯学習支援システムにおいても読書関連情報を提供したほか、生涯学習センター主催のセミナー関連資料の展示を県立図書館内で行う等、相互に連携して啓発広報の充実に努めた。

- ・生涯学習支援システムによる読書や文学関係情報提供数 333件
- ・平成26年度Webサイトトップページへのアクセス数 50,606件

○ 入館者数は438,108人で、平成25年度を11,998人下回り、2.7%減となった。入館者数の減少に反して、貸出冊数は417,213冊と前年度を4,596冊上回り、1.1%の増となった。平成26年度から実施している課題解決支援各コーナー資料の重点購入が要因の一つとして考えられる。今後も資料の充実、排架の工夫や関連イベントの実施等を通じて利用増を目指している。

○ 県立図書館のレファレンス・サービス*については、図書館ホームページの充実やデジタルアーカイブの公開等、利用者への情報提供の充実が進んでいる。簡易な所蔵確認や文献調査等は利用者自身で速やかに確認ができるようになってきていることもあり、平成26年度のレファレンス・サービス件数は25,270件となり、前年度を1,312件下回り、5.0%減となった。今後もレファレンス・サービスの充実を図り、利用者に広く認知・活用されるよう努めていく。

※ 図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際、情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を、検索・提供・回答することによってこれを助ける業務。

② 市町村立図書館等の取組と支援

○ 市町村立図書館等の取組を支援するため、県立図書館による市町村立図書館等への業務支援・情報提供のための巡回訪問を実施したほか、各図書館でのコーナー設置や排架のしかたなど、図書館運営の実際について見直しを行う特別支援事業を行った。なお、鹿角市及び八郎潟町においては、新図書館開館に向けた全般的なアドバイスをを行った。

・特別支援館数 5館（回数14回）

○ 相互貸借サービスの充実に向けた取組として、県立図書館から市町村立図書館等に対し資料の貸出を行った。

・市町村立図書館等への巡回訪問 156館

・市町村立図書館等への資料貸出 21,350冊

③ 学校図書館の取組と支援

○ 学校図書館の取組支援については、小・中学校において「司書教諭の手引き」の活用を促すとともに、小・中学校及び特別支援学校への学校訪問時に公立図書館等と連携した活動の促進について指導したほか、学校図書館が読書センター及び学習・情報センターとして機能するよう、授業において学校図書館と図書資料等を積極的に活用することについて「学校教育の指針」（本年度の重点）に示し、指導を強

化した。

また、生徒による図書委員会活動の優れた実践事例を学校訪問や各種研修の際に紹介するなど、学校図書館活動に関する情報提供に努めた。

- 公立図書館と学校図書館の連携強化については、市町村立図書館等への巡回訪問時に助言をしているほか、学校図書館を改善するビフォー・アフター研修を開催した。

- ・市町村立学校図書館への貸出冊数 1, 256冊
- ・ビフォー・アフター研修 3校

- 県立図書館から県立学校・特別支援学校への貸出は、7,787冊と前年度比1.5%の減となった。平成27年度は貸出用セットの追加購入と組み替えを重点的に行うほか、高等学校図書館訪問による広報を積極的に行って、利用の促進を図る予定である。

④ 公立図書館の相互利用・連携の推進

- 県立図書館と市町村立図書館等との資料の相互貸借の効率化を図るため、平成24年度から新システムによる相互貸借の運用を開始した。併せて、県内市町村図書館・大学図書館資料横断検索システムについても新システムによる運用を開始し、図書情報へのアクセス環境の整備を進めている。平成27年3月現在、横断検索システムの参加館は50館10室となっている。

- 読書活動推進に関する総合ホームページ「あきたブックネット」により、市町村立図書館等の関係機関のホームページとリンクし相互の連携を促進したほか、県内読書関連サークル等の活動状況や「家族で読書」推奨図書の設置図書館の情報等、全県にわたる読書情報を提供した。

- ・あきたブックネットアクセス件数 1, 529件(H26.4.1~27.3.31)

(4) 開放性

県民が本を選択する場としての公立図書館等は、県民にとって利用しやすいものでなければならないことから、公立図書館等の運営に積極的に県民の視点を取り入れ、利用者の声に柔軟に対応していけるよう指導に努めた。

- 公立図書館等をはじめとする社会教育施設の積極的な開放や、公立図書館等が利用しやすい施設となるための分かりやすい案内表示やサイン等の整備について、県立図書館が市町村立図書館等へ巡回訪問した際に助言したほか、図書館の環境改善を図る研修を実施した。

- 小中学校の図書館の地域への開放の現状について聞き取りをするとともに、実情に応じて助言をしたほか、高校の図書館についても、学校訪問や各種研修等の際に、学校図書館と地域社会の連携促進について指導をした。

❖ 県立図書館の県内図書館支援の取り組み

市町村図書館等への支援



専門的な知識をもつ司書職員による巡回訪問で図書館運営に関する助言や情報提供を行う他、市町村図書館職員や地域のボランティアを対象とした研修を行っている。

高校図書館への支援



高校図書館向け図書セット貸出や図書委員会の生徒を対象とした研修会の開催、司書職員による学校図書館訪問で運営への助言等を行っている。

小中学校図書館への支援



市町村図書館を経由した図書の貸出や、学校図書館関係者を対象とした図書館改善のための研修会開催、講師派遣等を行っている。

第2 県民・民間団体・企業等による読書活動の推進

(1) ボランティア活動を担う人材養成

学校や各種施設における読み聞かせ活動やおはなし会の開催は県民に読書と接する貴重な機会を提供している。県民に読書を広めていくうえで、地域のボランティアによる活動は重要な役割を果たしているほか、図書館で活動するボランティアは、図書館における多様なサービスの一翼をも担っている。そのため、読書関連のサークル等ボランティア活動を担う人材を養成することを目的に次のような事業を行った。

- 「打って出る司書」が、市町村図書館等が主催するボランティア研修会で講義を行うとともに、市町村立図書館等に対しボランティア育成の助言を行った。また、県立図書館で、子ども読書支援センターボランティア（支援員）による読み聞かせ（おはなしタイム）・読書相談を行った。

・市町村主催読書活動ボランティア向け研修会回数	9回
・おはなしタイム開催回数及び参加人数	23回（627人）
・読書相談件数	128件（57回開催）

- 県立図書館に登録したボランティアが、児童等への読み聞かせや県立図書館内で活動を行っている。

・閲覧室書架整理	72回
・スロープ展示企画	1回
・読み聞かせ実施回数	17回

(2) ボランティア活動への支援

ボランティア団体の活動が活発になるよう、その自主性を尊重しながら、活動の基盤を促進するため、次のような事業を行った。

- 公立図書館等が民間団体の活動へ助言ができるよう、県立図書館が市町村立図書館等を巡回訪問した際に助言、情報提供を行っているほか、県立図書館においては、民間団体によるセミナーの開催を支援した。

- 秋田県読書活動推進本部HP「秋田ブックネット」に、助成事業として、国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」や伊藤忠記念財団が行う「子ども文庫助成事業」を掲載し、周知することによりボランティア活動への支援を行った。

- 県立図書館や県子ども読書支援センターにおいて、読み聞かせに使用する大型絵

本や紙芝居、それに使用する舞台等の貸し出しを行い、ボランティア活動への支援を行った。

❖貸出状況

貸出先	冊数
幼稚園・学校	297
ボランティア団体	145
市町村図書館等	611
学童クラブ等	1,234
計	2,287

- ヤングアダルト層（青少年）の読書意識の向上を図るため、県立図書館のティーンズコーナーを充実させた。また、市町村立図書館に対し、ティーンズコーナーや健康・子育て、シニア（高齢者）、ビジネス起業、自殺予防など地域課題解決のためのサービス実施を助言し、全県の67%の図書館がコーナー設置等を行った。

（3）活動団体等のネットワークづくり

読書関連サークル等民間団体は、他の団体と交流・情報交換することで、活動が活性化したり、新たな視点での活動が展開されるため、県内の活動団体のネットワークの構築に向けて、次のような事業を行った。

- 「あきたブックネット」に、市町村立図書館との相互リンク設定し、「家族で読書」推奨図書の設置図書館等全県にわたる読書情報を提供した。
- 市町村図書館の読み聞かせボランティアを中心に読み聞かせグループの活動状況調査に基づき、「あきたブックネット」で情報提供するとともに、交流の機会を設け、ネットワークの構築を図った。

（4）企業の地域貢献活動としての読書支援の啓発と連携

読書活動は、企業にとっても事業展開のヒントを提供してくれるものであり、また、従業員の福利厚生として重要な役割を担うことが期待されている。書店、出版社、新聞社等の読書関連企業は、県民読書活動の推進にとって大きな役割を果たしていることから、こうした企業と連携して県民への啓発活動に努めた。

- 県立図書館閲覧室内のビジネス支援コーナーを充実させるとともに、市町村図書館への設置の働きかけも行った。また、雑誌スポンサー制度も継続実施により賛同企業増加があり、ビジネスセミナーや「SPONSORS' ビジネスカフェ」の開

催を通して、スポンサー同士の交流の機会も提供した。

- 県民への読書啓発のため県と県教育委員会が共同で実施する「秋田県読書フェスタ」(平成26年10月25日～11月3日)において、県書店商業組合が選定した「秋田を知る本」のリストを配布するとともに、書店が展示・販売を実施するなど、民間団体と共同での読書啓発に努めたほか、県学校図書館協議会と連携し、県内小中学校に当該リストを配布した。



また、「読書フェスタ」の開催に当たっては、読書の楽しさを伝える活動を掲載した「秋田県読書フェスタ」パンフレット20,000枚配布するとともに、ホームページにも掲載し、フェスタ終了後には、フェスタの内容や参加者の様子等を「読書活動だより」等により広報した。

・秋田県読書フェスタ参加者

県関係施設(児童会館、あきた文学資料館等)	6館
大学(秋田大学附属図書館、アトリエももさだ)	2館
市町村図書館	49館(22市町村)
読書推進活動委員会(国民文化祭県民参加事業)	1団体
秋田県書店商業組合	1団体

- 保育園、児童クラブを中心に「スギッチリサイクル文庫」の設置を進めた。さらに、プロバスケットボールチームの秋田ノーザン・ハピネッツとブラウブリッツ秋田の選手によるおすすめの一冊のパンフレット等を作成・提供することにより、学校訪問等の社会貢献活動に対し、児童・生徒に配布する読書推進リーフレットやノベルティを提供し、読書推進啓発活動を支援した。

- ・「スギッチリサイクル文庫」設置箇所数 64箇所
- ・パンフレット作成(2チーム合計) 1300部

第3 読書をしやすい環境づくり

読書活動の公益的な意義や効果を明確にしながら、その活動を促進していくため、行政、教育機関、民間団体、企業等と役割を分担し、一体的に読書活動を推進する気運の醸成に努めた。

(1) 行政の取組

- 11月1日を「県民読書の日」と制定し、制定記念事業として秋田テルサ全館を活用した「読書のつどい2014秋」を開催し、講演会や読書推進功労者表彰、書籍展示・販売、古本市等を行ってそれをホームページ等を使って広く情報発信することで、読書に親しむ機運の醸成を図った。

◆「県民読書の日」制定記念読書推進功労者表彰

◇ 被表彰者【4団体2個人】

○大館市立中央図書館後援会（大館市）

- ・図書館への図書寄贈や活動費助成による運営協力。
- ・文化講演会、「図書館でホットタイム」の開催、文学散歩や読書会の実、会報発行など。

○図書ボランティアグループ「れんげ草の会」（横手市）

- ・雄物川図書館で毎月おはなし会開催。市内保育園児・小学生・中学生への定期的な読み聞かせ。
- ・雄物川高校の授業での絵本や読み聞かせの講義

○図書館ボランティア「ホワイトブックス」（能代市）

- ・能代市立図書館を拠点に、乳児から大人まで様々な年代に応じたおはなし会を実施。
- ・要望に応じて学校や施設におはなしを「出前」も好評

○読み聞かせボランティアグループ「絵本とあそぼの会」（羽後町）

- ・町立図書館での定例おはなし会や読み聞かせ、絵本ライブや講演会への協力
- ・町内6校の小学校でおでかけお話し会実施、高校生への読み聞かせ指導。

○石川久悦氏（潟上市）

- ・旧天王町図書館協議会委員、地域資料・歴史資料の蔵書についてアドバイザー的役割。「葦の会」をはじめとする読書サークル講師

○齋藤幸子氏（湯沢市）

- ・湯沢市図書館協議会委員。「宅配ボランティア」「図書館施設ボランティア」の要として活動。

○ 読書活動への関心を高める取組として、様々な媒体を活用した県内関連事業の情報提供を行い、広く浸透を図った。

- ・ 広報広聴課広報事業を活用した読書イベント等の広報、マスコミへの情報提供
- ・ あきたブックネットによるタイムリーな読書情報の提供

(あきたゆかりの著名人による「おすすめの一冊」の紹介(累計24名24冊)

読書クイズの掲載、県内読書ボランティア団体の紹介)

- ・ 県青少年環境浄化審議会で選定した「優良図書」(累計9冊)紹介 など

❖「おすすめの一冊」の例



読売新聞東京本社特別編集委員

橋本 五郎 さん

おすすめの一冊

「ながい坂」

■ 著者名：山本周五郎

■ 出版社名：新潮社新潮文庫



－この本を選んだ理由は？

「不条理は許さない」という初心を忘れず、徹底して己れを律しあらゆる苦勞に耐えながら、「ながい坂」を一步一步登る。

もう20回近く読んでいます。心がくじける時に読み、自分を奮い起こしています。すぐれた本とは、生きる勇気を与えてくれるものだと思います。

○ 「県民読書の日」を含む「読書週間」の時期に、脚本家 内館牧子氏による本の効用についての講演会や県内初の超大型絵本おはなし会を行ったほか、冬季の読書活動を推進するため、詩人のあゆかわのぼる氏による本を読むときめき等について県民に直接語りかけてもらい、読書に親しむ機運の醸成を図った。

- ・ 参加者数 内館牧子氏講演会 (10/25) 450名
- 超大型絵本読み聞かせ会 (10/25) 420名
- あゆかわのぼる氏講演会 (2/28) 100名

○ 「市町村子ども読書活動推進計画」の策定に関する情報を収集し、必要に応じて資料を提供した。また、「計画策定の手引き」を作成し、市町村の策定委員会に参加しながら助言を行った。

なお、策定状況については、読書活動だより『むすぶ』により広報している。

- ・ 策定済 23市町村 策定作業中 2市 (H27年度末に策定完了)

- 文部科学省は、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動において、特色ある優れた実践を行っている学校、図書館及び団体（個人）に対し、その実践をたたえ表彰を行っている。

◆平成26年度子どもの読書活動優秀実践図書館・団体 文部科学大臣表彰

◇被表彰者【3学校・1図書館・1団体】

○秋田県立秋田きらり支援学校

〈移動書庫の設置〉カラーボックスにキャスターを付けた書庫を教室の近くに置き、月ごとにテーマを決めて選んだ本を並べている。図書館への移動に時間をかけず、おすすめの本を読むことができる。



〈図書委員会活動〉児童生徒活動の一環として全学部で、移動書庫の整理、本の貸出・返却、おすすめの本のポスター制作、購入本のお知らせ、図書館職員による「おはなしキャラバン」の人寄せちんどん隊、司会、あいさつなど多彩な活動。

○仙北町立角館中学校

〈角中生必読図書の制定〉各学級に必読図書を入れた学級文庫を設置し、約3ヶ月毎に入れ替えている。毎月1回は学級毎に図書館で朝読書する「読書day」実施。



〈読書番組の発信〉昼の校内放送を活用して読み聞かせや先生方の読書体験インタビュー、おすすめの本の紹介を行っている。

○五城目町立五城目小学校

〈読書貯金通帳〉児童が自分の読書体験を記録した「読書預金通帳」を活用して本を選択し、昼休みに校内でワークショップ形式のブックトークを実施。



〈ホーンタイム〉6年生が1年生に1対1で読み聞かせをする「ホーンタイム」を実施。また、「ブック委員会」が本にぬいぐるみを付けて貸し出したことで、図書館利用者が増え、活字のみの高学年用の本も多く読まれるようになった。

○羽後町立図書館

県内初となる「子ども司書養成講座」を実施。町内の児童・生徒にカウンター業務等に加え、読み聞かせの仕方、町内の郷土学習や昔語り体験などの講座を開催して読書リーダーを育成。地域FMを活用した広報にも努めている。

○来間（きき）の会

大館市を中心に年間40回を超える読み聞かせ会を実施。多くの参加者が集まるイベント的なおはなし会から少人数対象まで幅広く活動するとともに、県内外の様々な団体とのネットワークを積極的に構築している。

○ 県生涯学習センターが生涯学習講座として実施し、学習状況に応じて単位認定を行っている「美の国アクティブカレッジ」において、文学関係の講座（18件）を実施した。

○ 平成24年10月19日から、県立図書館において新図書館システムの運用により電子書籍の提供を開始しており、現在3,241点を提供している。

（H27年度も新規資料を購入予定）

（2）学校等での取組

○ 子どもたちに読書の習慣をつけさせるためには学校での取組が欠かせないため、読書に親しむ時間の確保と充実、全校一斉の読書活動の継続的な実施、計画的で体系的な図書館の利用指導、学校の図書委員会活動の活性化等について指導主事の学校訪問や教育関係者の各種研修会等を通して指導するなど、取組の強化を図った。

なお、指導の際は、指導計画の作成状況や時間の確保等の状況について聞き取り等により把握するとともに、優れた実践事例を紹介するなど、実情に応じた指導を行っている。

○ 乳幼児については、早いうちから本に親しみをもつことができるよう、各幼稚園・保育所において、新規採用者研修、保育技術協議会、デイリープログラム研修会において、読書及び読み聞かせに関する研修を実施した。また、訪問指導において、読み聞かせや図書コーナーのあり方について適宜指導・助言を行った。

・新規採用者研修Ⅳ※（対象80人）

・保育技術協議会（対象81人）

・乳幼児保育研修会（3地区：対象266人）

※新規採用者研修：読み聞かせの方法についての研修と園での読み聞かせの推奨

「豊かな心をはぐくむ絵本の読み聞かせ」と題し、グループかぜ代表谷京子氏を講師として、子どもを引きつける絵本や、ぜひ子どもに聞かせたい絵本の紹介の他、読み聞かせのポイントなどの指導・助言を受けた。

○ 県立図書館等のセカンドスクールの利用※を促進し、児童生徒の自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応できる能力の育成をサポートした。

また、セカンドスクール用プログラムの充実を図るとともに、県立図書館による市町村巡回でセカンドスクール用プログラムへの助言を行った。

※ 児童生徒が学校を離れた場所で、様々な自然体験や社会体験・共同生活体験等を行い、教科学習として授業時数にカウントできる学習形態。

・セカンドスクール受入学校数 53校(361人)

(3) 家庭での取組

- 家族と一緒に本を読んだ楽しい経験や時間の記憶をもたせることにより、子どもの頃からの読書習慣の定着を図っていくため、家庭において読書がより身近にある生活環境をつくっていく「家族で読書」運動を進めた。

《県内全小学生に配布》

…「家族で読書」推奨パンフレットを配布

《県内小学1年生に配布》

…『はじめよう！家族で読書－おすすめ50選－』

《県内全中学生・高校1・2年生に配布》

…『11月1日は県民読書の日』パンフレット



- 親と子どもが心のふれあいを深め、子どもの情感を大切に育むため、0歳から小学校低学年を対象とした読み聞かせ絵本を紹介する「マザーズタッチ文庫」絵本52冊を選定し、あきた子育て情報「いっしょにねっと。」で公開したほか、毎週日曜日の秋田魁新報読書欄「マザーズタッチ文庫」で、読み聞かせポイント「お父さん、お母さんへの内緒話」を加え、絵本をさらに詳しく紹介した。

(4) 職場での取組

- プロスポーツ選手に読書活動を奨励し、読書活動推進の担い手としての意識醸成を図った。



(5) 各民間団体等を通じた読書の普及・啓発

- 地域読書ボランティア育成事業として、読書ボランティアグループを対象とした研修会や絵本作家による読み聞かせイベントを県内7会場で実施した。(計420名参加)

- 「秋田県読書フェスタ」において、県書店商業組合が関連図書の展示・販売を実施した。



- 高齢者に対する読書の普及・啓発のため、「秋田LL大学園」において読書に関する講座を実施した。

・講座参加者数 52人

第4 読書に関する県民運動の推進

県民全体で読書活動を推進していくためには、県民が気軽に読書活動の推進に参加できるメニューを掲げ、読書に関する県民運動を展開していくことが重要となることから、次のような事業を行い読書活動の推進のための気運の醸成を図った。

(1) 読書の楽しみ

○ 読書の意義や有用性について啓発し、県民の読書活動に関する意識を喚起するため、次の事業を実施した。

- ・読書推進講演会の開催：3回

入場者計 約970人

平成26年10月25日(土)

【読書のつどい2014秋】秋田テルサ

- 講演「読書する人・しない人」

脚本家 内館牧子氏 (参加者450人)

- 超大型絵本おはなし会『おまえうまそうだな』ポプラ社 (参加者420人)

平成27年2月28日(土)【読書のつどい2015春】秋田市文化会館

- 講演「本を読むときめき 未来図を描く楽しみ」

詩人・エッセイスト あゆかわ のぼる (参加者100人)

- ・秋田県「読書フェスタ」の開催(平成26年10月25日～11月3日)

期間中、22市町村が開催する読書イベントを掲載したパンフレットを2万部作成し、県内図書館、書店に配布するとともに、HPに掲載した。

読書フェスタの内容や参加者の様子等は、読書活動日より「むすぶ」で紹介。

- ・「幼少期からの読書推進フロンティア事業」として実施した読書絵はがきコンクールには、幼児から中学生まで337作品の応募があり、展示や表彰式に多くの親子づれが訪れた。また、高校生・大学生を対象とした「ビブリオバトル」を県内4箇所で開催し、延べ21名の高校生・大学生が本の魅力を発表し、延べ180人の参加者が一番読みたくなった本(チャンプ本)を投票で決めた。



❖ビブリオバトル開催状況

大会名	開催日・会場	参加者	チャンプ本
高校生県北大会	10/4 大館市	50名	『オー!ファーザー』伊坂幸太郎
高校生県央大会	11/15 秋田市	60名	『手紙』東野圭吾
高校生県南大会	11/8 美郷町	40名	『超訳般若心経』境野勝悟
大学生大会	10/18 秋田市	30名	『いのちをいただく』 内田美智子・諸江和美・佐藤剛史

- ・「家族で読書」講演会の開催（県国公立幼稚園PTA連絡協議会と共催）

平成27年1月9日（金）

生涯学習センター

（参加者 約100人）

□講演「仕事としての絵本創り」

絵本作家 とよた かずひこ氏



- ・「家族で読書」推奨研修会

平成26年6月6日（金） 県総合教育センター（参加者約100人）

□講話「子どもの瞳が輝く絵本の読み聞かせ」

盛岡誠桜高等学校保育士専攻科子ども未来学科長

附田 清子氏

（2）図書資料の確保・充実

- 「秋田ノーザンハピネッツ」「ブラウブリッツ秋田」の選手お薦めの本のセットを市町村立図書館等へ貸し出しする企画展示（7カ所）等により、県及び市町村立図書館の個性化を図る取組に支援を行った。
- 三種町橋本五郎文庫の運営に関し助言や資料提供を行った。

（3）いつでもどこでも読書

- 読み聞かせボランティア、家庭・地域と連携を図り、「いつでも、どこでも」読書に親しむ環境づくりをするため、次の事業を行った。
 - ・読書ボランティアグループ等を対象にした「読み聞かせフェスタ」（研修会）の開催（参加者計 約423人）
 - 県北地区（平成26年8月17日（日） 大館市民文化会館）
 - 絵本ライブ・実技指導等 中川ひろたか 氏、村上康成 氏
 - （平成26年8月29日（金） 大館市立中央公民館）
 - 講話・実技指導等 松尾 福子 氏
 - （平成26年9月18日（木） 北秋田市交流センター）
 - 講話・実技指導等 松尾 福子 氏
 - 中央地区（平成26年7月29日（火） 由利本荘市アクアパル）
 - 講話・実技指導等 松尾 福子 氏
 - （平成26年8月28日（木） 県生涯学習センター）
 - 講話・実技指導等 松尾 福子 氏

□ 県南地区（平成 26 年 7 月 28 日（月） 横手市民会館）

講話・実技指導等 松尾 福子 氏

（平成 26 年 9 月 19 日（金） 仙北市角館交流センター）

講話・実技指導等 松尾 福子 氏

- ・「秋田ノーザンハピネッツ」「ブラウブリッツ秋田」の試合会場に選手お薦めの本を展示、親子で本にふれあえるコーナーを設置

ノーザンハピネッツ 14 試合（入場者数 39,949 人）

ブラウブリッツ 5 試合（入場者数 10,327 人）

- ・「秋田ノーザンハピネッツ」「ブラウブリッツ秋田」の学校訪問等の社会貢献活動に対し、児童・生徒に配布する読書推進リーフレットやノベルティを提供し活動を支援した。（リーフレット配布数 2 社計 1300 部）

- ・「打って出る司書」により、市町村立図書館等で開催する研修会への講師派遣、資料の提供を行った。

研修会講師派遣回数 21 回

◆秋田県子ども読書支援センターの活動から

職員と支援員が県立図書館「えほんのへや」や県内の読書イベント、市町村図書館等で開催される研修会等で活動している。



県立図書館「えほんのへや」で
支援員のおすすめ本を展示



支援員による
読み聞かせや
読書相談



県内ボランティアや
図書館職員向け研修
への講師派遣

IV 読書活動を推進する体制

読書活動について、学校教育や生涯学習推進の観点からだけでなく、余暇活動、ボランティア活動、高齢者の生き甲斐づくり、障害者福祉などの様々な観点から取り組むため、知事部局と教育庁が連携した体制を整えるとともに、県内の企業や各市町村に対しても読書活動の推進のための取組の強化を働きかけていく必要があることから、次のような取組を行った。

(1) 「秋田県読書活動推進本部（仮称）」の設置

- 庁内各部局の共通認識と理解の下で各施策を推進するため、全庁的な推進体制として、知事を本部長とする秋田県読書活動推進本部を、平成25年10月15日に設置した。
- 県の読書活動推進事業実施における連携を図るとともに、県全体の読書情報の共有化を図るため、関係13課所で構成する秋田県読書活動推進連絡会を2回開催した。

(2) 県子ども読書支援センターにおける支援と活動の充実

- 各市町村への巡回訪問時に、市町村子ども読書支援センターの設置について情報提供したほか、子ども向けテーマパック資料や、学校向け資料の貸出を行った。
 - ・貸出冊数 2,287冊
- 「えほんのへや」で、週1回、子どもの読書に関する相談を行った。
 - ・相談件数 128件
- 子どもの読書推進に携わるボランティア等の技量向上のため、読み聞かせ、ブックトーク研修会等へ、センター員、支援員を派遣した。
 - ・研修会開催回数 21回
- 子どもが本と出会う場の環境整備のため、児童会館図書室へ週2回、センター員を派遣し、図書室整備と資料の活用を図った。

(3) 読書に関する調査の実施

- 県民意識調査において、1日30分以上本を読む人の割合を調査。
 - 平成26年度 57.9%（前年度比3.4%増）
- 全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査により、「読書への関心」「1か月あたりの読書冊数」等を調査。
 - 《平成26年度「読書への関心」が高い割合》
 - 小学生85.6%（前年度比6.2%増） 中学生80.8%（前年度比1.0%増）

《「1ヶ月あたりの読書冊数」で最多の回答》

小学生 3～4冊（前年度と同） 中学生 1～2冊（前年度と同）

- 高校2年生を対象に、「読書活動に関する調査」を実施。（H26年4月現在）

《平成26年度「読書への関心」が高い割合》

高校生 61.8%（前年度比0.5%増）※H27年4月調査で3%以上の増加傾向

《「1ヶ月あたりの読書冊数」で最多の回答》

高校 「読まない」（前年度1～2冊）※H27年4月調査で「1～2冊」に回復

（4）読書活動推進関係者との意見交換会の開催

- 読書イベントやボランティア研修会等の事業ごとに、参加者アンケートを実施し、意見・感想とともに読書傾向、情報媒体などについて分析を行っている。平成26年度のアンケート回答者は合計584名となっており、各事業とも約8割が「良かった」「まあまあ良かった」と回答し、おおむね好評である。アンケート結果は学校等関係機関に提供し、次年度事業に反映させている。

（5）「読書活動推進県民会議（仮称）」の創設

- 秋田県読書活動推進連絡会における検討課題としている。

（6）「子どもの読書活動推進計画」の策定への支援

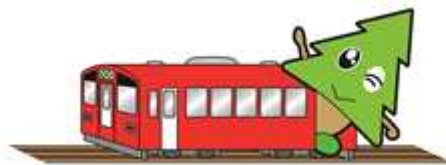
- 「市町村子ども読書活動推進計画」の策定状況について、電話による聞き取り調査を行い、必要に応じて資料を提供した。また、「計画策定の手引き」を作成し、市町村の策定委員会に参加しながら助言を行った。

また、市町村の計画策定状況について「読書活動だより」により広報した。

- ・策定済 23市町村 策定作業中 2市（鹿角市、湯沢市）※H27年度策定予定

スグッチリサイクル文庫ステーション

ー あきたの子どもたちに読書の喜びをリレーしていますー



秋田県読書活動推進本部

（秋田県立図書館2F）

V 「達成すべき目標数値」平成26年度実績

項 目	平成27年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
県立図書館のホームページのアクセス件数	300,000回	237,244回	227,572回	194,631回	216,763回	232,754回	246,446回	
県立図書館のレファレンス・サービスの件数	44,000件	38,792件	35,879件	29,931件	25,364件	26,592件	25,270件	
県立図書館の年間貸出冊数	450,000冊	413,271冊	406,287冊	433,561冊	417,651冊	412,617冊	417,213冊	
県立図書館の高等学校・特別支援学校図書館への貸出冊数	20,000冊	13,434冊	9,124冊	8,705冊	8,129冊	7,904冊	7,787冊	
県立図書館のセカンドスクールの利用学校数	46校	38校	48校	39校	50校	54校	53校	
県人口1人あたりの市町村図書館貸出冊数	2.3冊	2.03冊	2.08冊	2.07冊	2.12冊	2.17冊	2.16冊	
	(H26年度目標)	(H20年度調査)	(H22年度調査)					
1) 2) 学校図書館図書標準を達成している学校の割合	小学校	50.0%	42.8%	51.0%	調査なし	49.3%	調査なし	52.70%
	中学校	50.0%	32.8%	36.6%	調査なし	37.8%	調査なし	46.70%
2) 学校図書館を地域に開放している学校の割合	小学校	10.0%	6.9%	8.0%	調査なし	※1	調査なし	3.20%
	中学校	10.0%	3.8%	3.1%	調査なし	※1	調査なし	1.70%
	高等学校	10.0%	6.3%	6.8%	6.8%	6.8%	6.9%	15.7%
2) 読み聞かせボランティア等と連携して、読み聞かせや図書館の運営を実施している学校の割合	小学校	80.0%	76.7%	78.0%	調査なし	83.8%	調査なし	83.30%
	中学校	20.0%	12.2%	13.2%	調査なし	18.8%	調査なし	14.40%
	高等学校	10.0%	5.4%	5.4%	調査なし	9.4%	調査なし	9.8%
	特別支援学校	100.0%	80.0%	82.0%	85.0%	85.0%	92.3%	100.0%
2) 全校で取り組む読書活動を実施している学校の割合	小学校	100.0%	100.0%	100.0%	調査なし	99.1%	調査なし	100%
	中学校	100.0%	99.3%	98.4%	調査なし	99.1%	調査なし	100%
	高等学校	75.0%	65.1%	59.3%	59.3%	52.5%	55.2%	52.6%
	特別支援学校	100.0%	75.0%	73.0%	77.0%	81.0%	84.6%	92.3%
子ども読書の日や子ども読書週間における関連事業の実施件数	25市町村	14市町村	20市町村	23市町村	24市町村	25市町村	25市町村	
	75件	37件	84件	124件	168件	174件	150件	
学校図書館を活用した授業を、1学期に数回程度以上計画的に行っている学校の割合	小学校	80.0%	68.1%	66.3%	調査なし	69.2%	66.9%	71.8%
	中学校	60.0%	49.3%	43.5%	調査なし	54.4%	45.0%	46.8%
読書活動の調査で、「読書が好きだ」の設問に「強くそう思う」「そう思う」を回答した児童生徒の割合	小学校	80.0%	78.6%	80.1%	※2	79.6%	79.4%	85.6%
	中学校	80.0%	76.1%	76.5%	※2	79.0%	79.8%	80.8%
	高等学校	80.0%	55.2%	59.5%	59.5%	61.1%	61.3%	61.8%
読書活動に関する調査で、「1月に読んだ本の冊数」の設問で最も多い回答	小学校	11~12冊	3~4冊	3~4冊	3~4冊	3~4冊	3~4冊	3~4冊
	中学校	5~6冊	1~2冊	1~2冊	1~2冊	1~2冊	1~2冊	1~2冊
	高等学校	1~2冊	読まない	読まない	読まない	読まない	1~2冊	読まない
3) 県民意識調査で、県民が本や雑誌、新聞等を1日平均30分以上読む人の割合	(H27年度目標)	(H22年度調査)	(H23年度調査)	(H24年度調査)	(H25年度調査)	(H26年度調査)	(H27年度調査)	
	70.0%	60.3%	58.4%	55.3%	54.5%	57.9%	6月調査、9月公表予定	
子ども読書活動推進計画を策定した市町村数	25市町村	3市町村	5市町村	6市町村	12市町村	18市町村	23市町村	
子ども読書支援センターを設置した市町村数	25市町村	3市町村	3市町村	5市町村	5市町村	5市町村	10市町村	

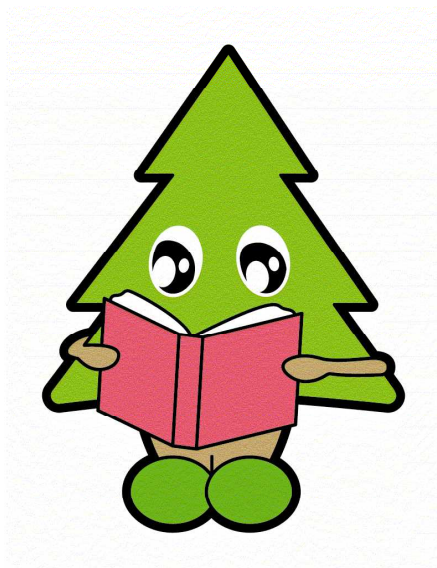
1) 標準を達成するに当たっては、古い図書資料の除籍を行うことも十分に配慮する。

2) この調査は、2年に1度しか行われていないため、年度が1年ずれ、21年度の欄がH20年度調査数値、22年度の欄が22年度調査数値、27年度目標は26年度目標となる。(特別支援教育課を除く。)

3) この調査は、平成22年度からの実施。

※1：24年度はこの項目の調査を実施していない。(文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」)

※2：平成23年度の「全国学力・学習状況調査(文部科学省調査)」が実施されなかったため、数値は未記入。



秋田県マスコット スギッチ